

水害発生時の避難システム

地域防災サポーター制度

～迅速な避難を促すための政策提案～

行政学ゼミ

坂本一将 田上美佑 柳田悠輝
(熊本県立大学 総合管理学部)

目次

- I はじめに
- II 熊本市における現状把握
- III 課題設定－課題解決の方向性－
- IV 政策提案
 - IV-1 先行事例
 - IV-2 提案内容
- V 期待される効果および課題

はじめに

- ◎令和2年7月豪雨水害等の大規模災害
- ◎熊本市にも内在する多くの河川
- ◎水害発生時における迅速な避難方法、
- ◎特に水平避難について提言

避難する際の主体である「住民」の意見や意識を
より反映させた、実現可能性・持続性の高い

避難方法を考察

熊本市における現状把握

城東校区

宝田地区

住民の防災意識に係るアンケート・聞き取り調査
—市全域へ適応可能な普遍的な政策を提案—

アンケート回収率 宝田地区：66%、城東校区：61%

〈アンケート結果〉熊本市の防災に関する取り組みについて

①自治体から発信される防災に関する情報は十分だと思う	56.4%
②ハザードマップを全戸配布していることを知っている	32.2%
③ハザードマップをホームページに掲載していることを知っている	22.5%
④避難所への経路案内システムで 混雑状況を掲載していることを知っている	67.7%
⑤熊本市緊急時告知ラジオ(有償ラジオの販売)の存在を知っている	33.8%

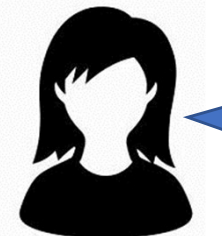
〈聞き取り結果〉住民からの要望



私の家は最も川に近い位置にあるので、早めに(川の状況を)皆さんに伝えることができればと思っている。



地域の防災無線は家の中で聞き取れない。



白川の水量が増えているのに、白川の情報がない。自分で見に行くしかない。



9年前に大雨で自宅が浸水したことがある。防災無線も聞こえず危険な状況にあることを知らずに寝ていた。夜中だったので川に設置されている水位警報装置も見えていなかった。近所の人が避難を呼びかけに来てくれていなければ、助かっていなかった。



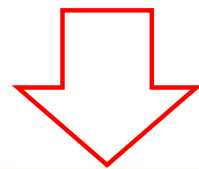
今の避難指示はわかりにくいと思います。もっと具体的に、例えば「白川があと1mくらいで氾濫しそうです。今すぐ避難開始」とかがわかりやすいと思います。

課題設定

— 課題解決の方向性 —

【現在の熊本市の取り組み】

- ◎熊本市情報ポータルサイトで下記情報の掲載
緊急情報、避難情報、気象情報・地震情報、
避難所情報等
- ◎防災無線・防災ラジオの設置



**確実に全世帯に川の危険が事前に
伝わる仕組みが必要**

政策提案

緊急連絡網による情報伝達

有事の際に、連絡事項について、どのような順番で誰がどこに連絡をするのかを予め決めておいたもの

【メリット】

- ◎誰にでもわかり易い
- ◎確実性に優れている

地域担当職員制

住民との対話・交流を通じ、地域課題の解決に住民の意向を反映させ、職員の意識をも住民本位に転換させることを目的に、職員を各地域の担当者として配属し、住民と共に地域課題の解決を図る制度

【メリット】

- ◎相互理解と信頼関係の創出
- ◎地域の特性に応じた対応

融合

先行事例

高知県 黒潮町

人口:10,692人

世帯数:5,444世帯

(令和3年9月30日現在)

海岸沿いにあり、雨が多い地域

「地域担当職員制」による地区防災計画活動の展開

【背景】

- ・防災活動に係る人材不足
(担当部署)
- ・職員全員が通常業務に加えて
防災業務を兼任する制度を導入

【配置】

- ・黒潮町消防分団(14分団)を
基本として配置。
- ・保育所等を含む全ての職員
200人が数名で地区を担当。

【活動内容】

- ・地区の課題解決に向けた議論
- ・地区の特性に応じた防災活動

【効果】

- ・人員不足を補い、早急かつ広域
での防災活動を可能にした。
- ・地域と行政が協働する関係を
築いてる。

熊本市における **防災版** 地域担当職員制

「地域防災サポーター制度」

【地域担当職員制の現状】

※本市では「地域職員担当制」という。

- ◎平成29年4月から、17カ所のまちづくりセンターに地域担当職員49名を配置
- ◎地域に対して総合的な支援を行っており、防災活動は担っていない
- ◎基本的には地域住民からの相談や要望等を受け付ける窓口

【防災地域担当職員制の導入】

地域防災サポーター制度

- ◎職員全員が通常業務に加えて地域職員を兼任する
- ◎活動内容は防災業務
 - ・自主防災クラブとの連携
 - ・緊急連絡網の作成
 - ・緊急連絡網利用時の発信

《参考》人口：731,833人、世帯数：**349,759世帯**（令和3年9月30日現在）

職員数：熊本市行政職員4,348人

仕組み①

各地区の世帯数に応じて 地域防災サポーターを配置

(区域割の例)

中央区春竹校区 八王寺町2,375世帯(市の0.0067%)

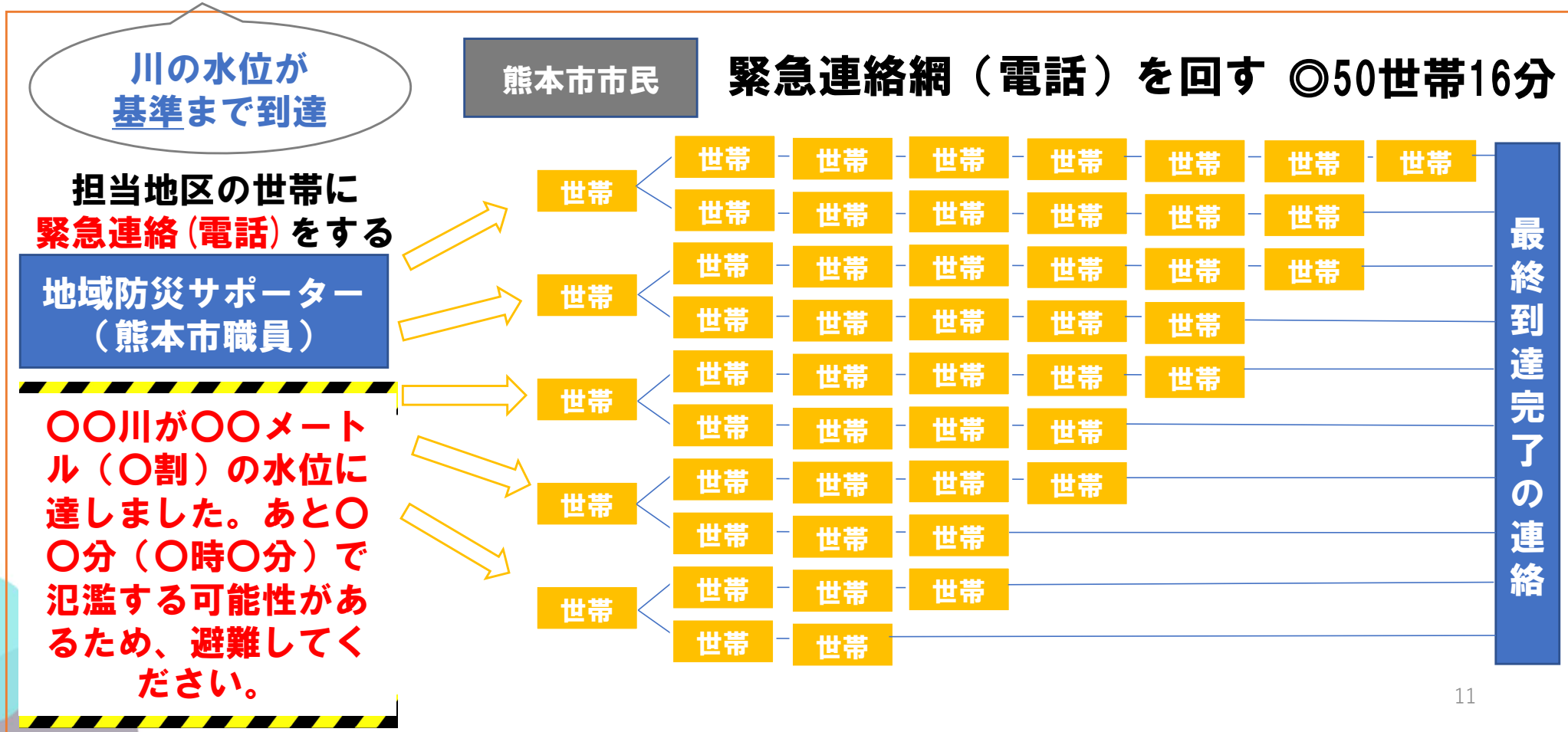
4,348人(職員全体数) × 0.0067 = **地域防災サポーター29.5人**

地区名	世帯数	職員数(人)			
九品寺4丁目	26	0.3	本荘4丁目	21	0.3
九品寺5丁目	229	2.8	本荘6丁目	103	1.3
九品寺6丁目	54	0.7	南熊本1丁目	300	3.7
琴平本町	781	9.7	南熊本2丁目	299	3.7
琴平1丁目	448	5.6	南熊本3丁目	216	2.7
琴平2丁目	473	5.9	南熊本4丁目	184	2.3
萩原町	1,528	19.0	南熊本5丁目	371	4.6
春竹町大字春竹	250	3.1	迎町2丁目	82	1.0
平成3丁目	134	1.7	弥生町	211	2.6
本荘2丁目	104	1.3	八王寺町	2,375	29.5
			春竹校区合計	8,189	101.8

仕組み②



《宝田地区の例》
川に近い世帯から
連絡が回っていく
ようにする



期待される効果および課題

【期待される効果】

- ◎地域防災サポーターによる地域の特性に応じたきめ細やかな対応
 - ◎確実に漏れなく情報伝達が可能
 - ◎市民の安心感を創出
- ※災害発生時以外にも、地域の連絡等の地域づくりに応用できる。

【残された課題】

- ◎職員の業務増大
- ◎連絡に時間を要する
- ◎連絡先が留守などで電話に出ない

ご清聴ありがとうございました。
参考文献についてはレジュメをご参照ください。